

## 家族長期ケアモデルからみた家族看護実践知

神戸大学医学部保健学科 村田恵子

### 1. はじめに

社会と看護職の両者から注目・期待されている家族看護の発展には、実践の基盤となる家族看護実践知の創造とそれらの体系化が課題となろう。これは、近年、疾病構造の変化・人口の高齢化、在宅ケアの推進により増加している慢性病や長期ケアを要する家族員と生活を共にし、療育・介護を担う家族の看護においてもニーズが高い。

この課題の一端として、私共が取り組んできた家族長期ケアモデルを紹介し、この検討の経緯と研究・実践への適用、これを通しての家族看護実践知の探求について報告し、皆様のご意見、ご討議を頂き、さらなる発展に繋げていきたい。

### 2. 家族長期ケアモデルから見た家族看護実践知探求への取り組み

#### 1) 家族長期ケアにおける家族看護実践知の必要性

家族員の慢性病や長期ケアは、他の家族員や家族システム全体に影響を及ぼす。家族は本来の発達課題に加え、新たな状況への適応課題（病気の受容、役割・生活の再構成、ケア参加と医療者とのパートナーシップ、支援システムの再構築等）にも取り組まなければならない。こうした家族の看護援助には、長期の健康障害と療養、家族の介護・療育が他の家族員や家族システムに及ぼす影響と家族の取り組みや関連要因を把握し、家族のケアニーズのアセスメントとケア指針、介入法を系統的に導き、提示できる家族看護実践知が必要である。

#### 2) Hymovich's Model の応用による家族長期ケアモデルの作成

上記課題への取り組みには、臨床看護師と共同で実施してきた外来での家族看護相談や患者家族会への参加経験に加え、米国の Hymovich's Contingency Model Long-Term Care(1992)を手がかりとしてきた。後者のモデルは、慢性病患者・家族の看護実践と研究の指針として、Hymovich らが理論（システム・家族・発達・ストレスコーピング理論）的文献と看護実践、先行研究から定式化したものである。私共はこれをわが国の背景や実情を考慮して家族看護への応用を試み、家族長期ケアモデルと呼び、研究と実践の枠組に活用している。本モデルはシステム（個人・家族・地域・社会）とその特徴、時間、家族ストレス・病の捉え方・家族対処・家族ニーズと家族の強み・資源、家族機能レベル・看護ケアから構成される。

#### 3) 家族長期ケアモデルの研究・実践への活用

家族長期ケアモデルの具体的な活用は、まず本モデルを概念枠組みとして慢性病が養育期の家族に及ぼす影響と家族の対処や影響要因を調査・分析し、同時に本モデルの妥当性と有用性を検証した。また、このモデルの臨床応用を可能とする家族支援のためのアセスメント質問紙およびアセスメントとケア指針を検討する記録用紙を作成し、これを用いて外来（訪問）家族看護相談を展開している。

### 3. 今後の課題

今後、長期ケアを要する家族支援の基盤となる家族看護実践知としての倫理・アート・自己認識・経験知を内包する真の家族長期ケアモデルの再構築とその活用を模索している。